



# 営農NEWS



## 抑制トマト栽培における黄化葉巻病の防除を徹底しましょう

トマト黄化葉巻ウイルスを媒介するタバココナジラミ類を、防虫ネットの展張などで施設への侵入を阻止し、さらに殺虫剤による防除などを徹底して、ウイルス病の発生を抑制します。

また、発病が確認された株は早急に抜き取り、施設外に持ち出し、適切に死滅処分して、産地における撲滅を図りましょう。

### [総合防除のポイント]

ウイルスを媒介するタバココナジラミ類防除の基本として、施設内に虫を①入れない、②そこで増殖させないことが重要です。①の施設に入れ対策としては、出入口や天窓・側窓など施設の開口部に防虫ネット（目合い 0.4 mm 以下）を設置します。また、害虫の飛来源、ウイルスの保毒源となる雑草や野良生えなどのトマトは、常に除草や抜き取りを徹底してください。なお、施設内へは栽培トマト以外の植物などを搬入、栽培しないことが重要で、これらの植物についていた害虫を持ち込む危険性があります。

次に、②の施設内でタバココナジラミ類やウイルスを増殖させない対策としては、定植までに灌漑剤や粒剤などを処理し、さらに栽培中はトマトを注意深く観察して早期発見に努め、早期防除や発病株の処分を徹底します。また、施設内に黄色の粘着トラップを設置して微小害虫を誘引し、密度の抑制を図るほか、薬剤防除時期の目安にします。薬剤は下記の表 1 を参考に作期全般における総使用回数を考慮して選択し、また抵抗性害虫の出現を防ぐため、ローテーション散布が必要です。

さらに、③栽培が終了した後の対策としては、施設内の微小害虫が逃げ出す前にハウス内の蒸し込み処理などで死滅させて、施設周辺におけるタバココナジラミ類の密度低下を図ることが必要です。微小害虫は飛翔しますので、周辺を含め地域全体での連携した共同防除が重要になります。

表 1 トマト、ミニトマトにおけるコナジラミ類の主な防除薬剤（平成 29 年 7 月 3 日現在）

薬剤名	対象作物		使用量または希釈倍率	使用時期	使用回数
	トマト	ミニトマト			
ベストガード粒剤※	○	○	5g/培土 1ℓ 混和	播種時または鉢上げ時	いずれか 1回
	○	○	1~2g/株 株元処理	育苗期	
	○	○	50g/セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊 (30×60cm、使用土壌約 1.5~4ℓ) 散布	育苗期後半	
	○	○	1~2g/株 植穴処理土壌混和	定植時	
ベリマークSC	○	○	400 倍を 25ml/株または 800 倍を 50ml/株 灌漑	育苗期後半~定植当日	1回
プレバソフフロアブル5	○	○	100 倍を 25ml/株または 200 倍を 50ml/株 灌漑	育苗期後半~定植当日	1回
スタークル顆粒水溶剤※	○	○	100 倍 セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊 (30×60cm、使用土壌約 1.5~4ℓ) 当り 0.5ℓ 灌漑	鉢上時または定植時	1回
	○	○	2,000~3,000 倍	収穫前日まで	2回以内
アニキ乳剤※※	○	○	1,000~2,000 倍	収穫前日まで	3回以内
コルト顆粒水和剤	○	○	4,000 倍	収穫前日まで	3回以内
コロマイト乳剤※※	○	○	1,500 倍	収穫前日まで	2回以内
ディアナSC	○	○	2,500 倍	収穫前日まで	2回以内
エコピタ液剤（気門封鎖型）	○	○	100~200 倍	収穫前日まで	—

注) 薬剤名の※印は同一系統のネオニコチノイド系、※※印はマクロライド系です。抵抗性対策として、同一系統薬剤の連続使用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040